

稲 穂

豊崎小学校 校長室通信
令和2年 5月 8日
第13号 文責 町田晋一

子どもの声が聞こえる学校に…

昨日、久しぶりに子どもたちが登校し、5月31日までは八戸市として「感染防止に関する要注意月間」ではありながらも、学校に子どもたちの笑い声や笑顔が戻ってきました。「やっぱり、学校は子どもたちあってのものだなア…。」と改めて実感しました。「要注意月間」として、本校でも以下のことを実践していきます。

- ①授業中の机はできるだけ離す(約1.5mは離れています)
- ②毎時間の換気
- ③各休み時間の手洗い、うがい
- ④放課後の職員による校舎内の消毒
- ⑤歌唱指導、距離が近くなる体育の運動等の自粛
- ⑥マスクの着用
- ⑦集会等における他学年との交流をできるだけ少なくする



※上記の件の基本的な考え方として、3密にならない教育活動を行う。

この取り組みをしながら、誰もが新型コロナウイルスに感染することなく、このまま教育活動を継続できることを願ってやみません。これまでご家庭において、子どもたちの健康管理等のご協力、本当にありがとうございました。これからはこの学校生活が続くよう、学校でも全力で感染予防について取り組んでいきます。

「『失敗』って必要？」

自分の好きな言葉の中にこんな言葉があります。

「あなたが転んでしまったことに関心はない。

そこから立ち上がることに関心があるのだ。」

これは、第16代アメリカ合衆国大統領Abraham Lincolnの言葉です。自分は失敗ばかりして、よく怒られていた子ども時代を過ごしてきました(今でも実は…)。この言葉を大人になって知った時、「失敗を生かすことの大切さ」として理解しました。「失敗をしない人はいない。大切なのは、その失敗を生かすことだ。」そんな風に聞こえたのです。「失敗をしたままでは、ただの嫌な思い出だが、それを生かせばその失敗に意味が生まれる。」とも思いました。

いつの時代も子どもたちは失敗を怖がり、挑戦しなくなってしまう傾向があります。失敗をしたくないから挑戦しない。それは、我々大人たちが失敗を責め、失敗自体が悪いことのように伝えてしまっているからではないでしょうか？失敗をしないようにじっくり考え、自分なりの考えや手段をもつことはとても大切なことです。でも、失敗をした時はその失敗を責めるのではなく、挑戦したことを認め、その失敗を生かす方法を一緒に考えられる大人になりたいと自分は思います。



